

# WNI 気象文化創造センター「気象文化大賞」研究・活動成果報告書

2015年8月28日

## 1. 研究・活動テーマ

沿岸地域の「水の神さま」が繋ぐ水と人の歴史文化伝承プロジェクト

## 2. 分類 (チェックして下さい)

気象文化大賞                       気象文化功労賞

## 3. 研究・活動主体 (チェックして下さい)

個人                                       団体

## 4. 申込者

申込代表者氏名 高橋 春男	所属機関名 (職名) 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
所属機関住所 〒981-0933 仙台市青葉区柏木1丁目2-45 フォレスト仙台5F	
連絡先住所 (上記所属機関と同じ場合は「同上」と記載して下さい) 〒 - 同上	
連絡先 (担当者) 氏名 篠原富雄、廣重朋子	電話 (022) 276- 5118 FAX (022) 219- 5713 e-mail melon@miyagi.jpn.org
活動者氏名	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 水部会
高橋 春男	弁護士 役割：代表者
山田 一裕	東北工業大学工学部環境エネルギー学科教授
篠原 富雄	事務局スタッフ 役割：連絡責任者
廣重 朋子	事務局スタッフ 役割：連絡責任者
荒井 重行	三菱マテリアル株式会社
井上 昭吾	NPO 法人ふあるま・ねっと・みやぎ 役割：地域担当調査員
井上 千鶴子	市民 役割：地域担当調査員
小島 淳子	仙台ひと・まち交流財団 役割：地域担当調査員
科野 健三	東北ポーリング株式会社 役割：地域担当調査員
中條 敏美	市民 役割：地域担当調査員

## 5. 研究・活動の実施内容

### ㊦ 研究・活動の目的

沿岸部の「水の神さま」の被害状況を調査し、地元の方のインタビューや資料を基にまとめ、広く市民に発信します。これによって、貴重な水文化の伝承の保全を図るとともに、地域コミュニティの復興をめざし、形成の場作りとしての祭事の復活と継続への努力をしている方々への取材・発信を通じて、復興への支援となっていくことを目指します。

また、自然や環境を無視し人間社会優先の開発を見直すきっかけを提供したい。

### ㊦ 研究・活動の内容

#### (1) 調査活動

##### ① 定例会で調査の進め方について検討

月1～2回集まり、本プロジェクトの進め方について検討を行なった。

日程	参加人数	内容
6月14日	7名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表彰式の参加確認</li> <li>● プロジェクトの目的、目標、スケジュールの共有</li> <li>● 調査の進め方、発信の方法について検討</li> </ul>
7月30日	9名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主な神社リストの確認（ウェブサイト等より）</li> <li>● 調査項目、ボリュームの統一の必要性を確認</li> <li>● 沿岸地域の地域をまんべんなく行うようにする。</li> <li>● 南三陸の後藤氏、工藤宮司にヒアリングする。</li> <li>● 原稿の作成はメンバーが手分けをする。</li> </ul>
9月8日	7名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 沿岸部の水の神さま一覧リストの確認</li> <li>● 話を聞けそうな人の情報を確認。</li> <li>● 下調べをした上で、10～11月に調査を行う。</li> </ul>
10月25日	9名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 9/8 荒浜地区波切地蔵尊、</li> <li>● 10/23 五柱神社聞き取り調査実施報告</li> <li>● 10/19 気仙沼の五十鈴神社・一景島神社・御崎神社下調べ訪問報告</li> <li>● 北部神職連絡協議会講演会 参加・打合せ報告</li> <li>● 調査神社の絞り込み</li> <li>● 今後の調査スケジュール立て</li> </ul>
12月7日	8名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 10/27 南三陸自然観察会に参加報告</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 11/16 石巻住吉神社訪問報告</li> <li>● 11/24 南三陸水の神さま調査報告</li> <li>● 11/29 亘理荒浜調査報告</li> <li>● 12/7 後柱神社聞き取り報告</li> <li>● 今後の調査地点の取捨選択。気仙沼、石巻、松島町を最優先とする。</li> <li>● 原稿の分担について調査参加者から割り振る。これまで調査した地点について分担決め。</li> <li>● 原稿の共通必要項目の決定。</li> <li>● 原稿の書き方、立ち位置について確認。</li> </ul>
1月24日	9名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1/17 気仙沼 五十鈴神社、一景島神社調査報告・報告書の確認</li> <li>● 今後の調査優先箇所・日程の確認</li> </ul>
3月14日	8名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2/24 関上湊神社調査報告・報告書の確認</li> <li>● 2/28 石巻大島神社、東松島白髭神社調査報告・報告書の確認</li> <li>● 報告書のまとめ方について協議、フォームをまとめ、4ページ以内にまとめることとする。</li> <li>● シンポジウムから見学会の開催に切り替えて、実施に向けて進める。</li> </ul>
4月11日	8名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3/26、4/3 報告書編集会の報告</li> <li>● 各調査地点の報告書の内容・様式確認</li> <li>● 各地点の調査・報告書進捗状況の確認</li> <li>● はじめに・おわりにを入れる。各担当の割り振り</li> <li>● 主要メンバーの体調不良により、見学会の実施を見合わせる。</li> </ul>
5月9日	6名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タイトルの検討</li> <li>● 報告書初校の原稿確認、修正</li> <li>● 最終確認は編集会にて行う。</li> </ul>

## ② 調査活動

インターネットや書籍、地名や地図から、沿岸地域の水に関連する神社等をリスト化した。その情報をもとに、現地下見を行い、連絡先が分かれば宮司に連絡を取ったり、現地下見の際に周辺の住民やそこに居合わせた住民により詳しい話を聞ける方を教えていただいた。宮司や町内会長などと調整し、改めて水の神さまについてヒアリングをする形で調査を進めた。

(ア) 8月7日 仙台市若林区「五柱神社」、名取市閑上「湊神社」調査

現地で事前調査を行ない、神社の由緒版や周囲の状況、現在の状況を確認した。

(写真は五柱神社)



(イ) 8月17日 東松島市「白髭神社」調査

現地で事前調査を行ない、神社の由緒版や周囲の状況、現在の状況を確認した。



(ウ) 9月8日 亘理町「波切地蔵」調査

亘理荒浜支所において、菊地敏夫氏（荒浜街づくり協議会事務局長）、岡崎武彦氏（荒浜区長、かたりべ）、江戸寿氏（元中学社会科教師、東北学院大学歴史学科卒 地域史研究家）に面会、江戸氏より地域のお話をお聞きした。主として地名から荒浜地区の阿武隈川河口周辺部の形成過程を調べ、洪水の受けやすさなどについて解説してくれた。「伝承」と「史実」を混同しないことが大切であると強調された。津波被害についても避けて通るのではなく、この地域は津波の常襲地帯であるということを知覚して住めるようにすること。



(工) 10月19日 気仙沼市「五十鈴神社」「一景島神社」「御崎神社」 調査

五十鈴神社では、宮司の奥様より震災時の状況とその後の復興の状況についてお聞きした。

一景島神社は五十鈴神社の宮司がかねており、そちらはすっかり流された。周辺の人家も流され、祭りをすることができなかったが、支援してくれる方が出て、昨年より祭りを復活させた。



唐桑半島の先端にある神社で龍の尾（尾崎）のようになっているところの神社という意味である。唐桑半島は地震の影響はほとんどない。浜の方々が津波の被害にあわれた。町が壊滅したのでその年は祭り等も行われなかったが一昨年より復活した。

(才) 10月23日 仙台市若林区「五柱神社」調査

この地域は津波よりも名取川の洪水に悩まされた地域であり、降雨、止雨の祈願の対象でもあった。東海林義一（藤塚町内会長）にお話を伺い、藤塚集落のいわれや、五柱神社の復興等について聞くことができた。地震になったら堤防に集合することになっていた。しかし、津波のことは頭になかった。仙台は津波が来ないといって避難しなかった高齢の方が流されてしまった。神社は再建することになっている。来年5月には本殿が完成する予定。震災前の写真データをいただけることになった。



(力) 10月27日 南三陸町「荒沢神社」「荒島神社」「上山八幡宮」調査

震災の語り部で志津川町文化財保護委員の後藤一磨さん、宮司の工藤祐允さんがガイドする観察会に参加し、お話を伺った。神社の由来や荒島の貴重な植物群のお話の他、震災への思いも伺った。江戸時代の初めに海岸の谷地のところに海沿いの道「浜街道」を開き、湿地を埋めて住宅地にした。今回、津波被害を受けたところは江戸時代以降埋め立てて造成したところだとのこと。



明治8年ころには社務所は南三陸町防災対策庁舎付近にあったが、昭和35年

のチリ地震津波により、前を流れる八幡川が氾濫し、昭和 46 年本殿を上山に遷座した。3.11 の津波で海拔約 17 メートルにある鳥居の足元まで津波が到達したとのこと。

(キ) 11 月 16 日 石巻市「大島神社」調査

旧北上川河口近くの大島神社を調査した。住吉町内会会長・芦野正一さんからお話を伺うこともできた。大島神社のある住吉公園は旧北上川との間にある約 2 m のコンクリート製の堤防で防護されているが、震災の津波は 3 m ほどで鐘楼の鐘の底位まできた。社務所では押入れの中板のところまできたとのこと。



(ク) 11 月 24 日 南三陸町「荒沢神社」「荒島神社」「上山八幡宮」調査



改めて主なメンバーで、志津川町文化財保護委員の後藤一磨さん、宮司の工藤祐祐さんにガイドしていただき調査を行った。南三陸町志津川は温暖で降雪も少ないリアス式海岸で、カキやホタテなどの養殖等漁業の盛んな町であった。一方津波被害を受けやすく、明治以来 120 年で 4 回、甚大な津波被害を受けてきたため、災害に強いまちづくりを進めてきていた。日本大震災では、町が想定していた 6m をはるかに超える 16m の津波が押し寄せたため、7 割の世帯が家を失い、20 人に 1 人が犠牲になった。

工藤宮司は、自然の脅威を謙虚に受け入れ、ボランティアに感謝し、被災した町民の営みが守られ共同体として継続するよう願っており、地域の拠点として神社が果たして来た役割を感じた。

(ケ) 11月29日 名取市「湊神社」、亶理町「川口神社」「浪切地蔵」調査

亶理町荒浜支所において、江戸寿氏のお話を聞いた後、川口神社、浪切地蔵を調査した。江戸寿氏（元中学社会科教師、東北学院大学歴史学科卒 地域史研究家）より「水と郷土荒浜」と題してお話を聞いた。地域の生業の変化や地域の地名の由来など調査をまとめる上で必要な基礎情報を学んだ。



川口神社では成就院住職菊地英明氏より津波時の様子及び主尊の11面観音像を拝謁させていただいた。閑上日和山公園では富主姫、湊神社の仮宮の安置された日和山（標高8m）に上って状況を確認調査した。

(コ) 12月7日 仙台市若林区「五柱神社」調査

町内会のみなさんに五柱神社の案内と解説をいただいた後、仮設住宅にて詳しくお話を伺った。神社は8月時点では松の木が2本あったが、根元から切られてなくなっていた。



400年以上もの歴史をもつ集落であったが、3.11の津波で神社と周囲の住家はことごとく流された。居住禁止区域に指定されてしまったために、震災時93世帯を数えた集落の人々で、近隣の六郷地区への集団移転を希望している人は40人を切り、他の方々は県内をはじめ他の地域に散らばってしまっている。しかし、町内会長であり、神社の総代長でもある東海林義一氏を中心に集落の主だった方々はこの地に400年住んでいたことの証として神社を再建する準備を進めている。

(サ) 1月17日 気仙沼市「五十鈴神社」「一景島神社」調査

宮司と奥様から、五十鈴神社のいわれや震災時の状況、氏子などの状況についてお話を伺った。震災で地域の方々がいなくなり、自治会や行政区の組織がなくなったため、今は総代さんだけで行っている。そろそろ土地のかさ上げができ復興住宅ができれば戻ってくるため、同じ



ような組織ができるだろうと期待している。総代の人数は1/3ほどになったが、震災だけではなく年齢的なものも多い。もう少し落ち着いてから組織の再編成を

しないとと思っているとのこと。

(シ) 2月24日 名取市「湊神社」調査

現地は大震災による津波被害からの復興を記念する地域として、整備されつつあり、閑上地域の津波からの復興の進展状況を一望できる。閑上浜は昭和8年3月3日の「昭和三陸津波」の襲来も受けており、後世に警告を残した「海嘯記念碑」もあったが、今回津波により倒され日和山の足元に倒れたままになっていた。湊神社は閑上町内の街中に、富主姫神社は日和山の頂上にあったが、どちらも津波に流されてしまった。町内の宮大工さんが日和山の頂上に湊神社と富主姫神社を合祀したお社をボランティアで再建してくれて今の姿になったとのこと。



(ス) 2月28日 石巻市「大島神社」、東松島市「白鬚神社」調査

「大島神社」町内会の公民館が境内にある。また、老人会の役員会は常時社務所で行われている。地域のコミュニティの中心を担っていた。しかし、21年前（1994）には氏子が480戸であったが、260世帯ほどになっており、震災前から減ってはきていたものの、震災のため半分になってしまった。



「白鬚神社」亀廻井雅文白鬚神社宮司にからお話を伺った。震災の前、白鬚神社は鳴瀬川河口右岸の地に建てられていたが、敷地が防潮堤にかかるために亀岡地区の亀廻井宮司宅の敷地に移転した。亀岡地区は震災前に450世帯あったが現地に残って自宅の再建をされた方は50世帯ほどとのこと、残りの方は高台移転の意向とのこと。地域のコミュニティの再興にはかなり時間が必要と思われる。





(七) 3月16日 仙台市若林区「八大龍王碑」調査

最新の状況を確認するため、写真を撮影に行った。震災から4年が経過しても、いまだ石碑は割れて倒れたままで、小さな板碑と鳥居のみである。周辺も今だかさ上げも造成もされておらず、復興には程遠い。



(2) 調査報告書の作成

① 報告内容の検討

いくつかの水の神さまに取材したのち、定例会の場において、MELON 水部会としての視点を考え報告項目について検討した。インターネットや由緒版で分かる項目だけではなく、地域の人々の声を聞きまとめることが特徴である。歴史の専門家ではないため歴史文化の正しさではなく、地域住民と水の神さまとの関わり、地域住民の思い、水の神さまが地域で果たしている役割などについてまとめ、加えて取材した我々の感想も多少盛り込むこととした。

<調査項目>

1. 神さまの正式名称（地域での呼び方）
2. 所在地住所・行き方・近くの川 海
3. 縁起・由緒・伝承
4. 周囲の様子と見どころなど
5. 震災とその後のようす
6. 地域の人々とのかかわり

また、報告箇所については、近年の活動の中で津波等に関連する水の神さまについても報告として盛り込むこととした。リストや下調べは多くの水の神さまについて行ったが、地域のバランスや人のつながりから、12ヶ所の水の神さまについてまとめた。

② 原稿の作成

現地取材に参加したメンバーの中から、原稿作成担当者を決定。担当者が共通調査項目に基づいて取材の結果をまとめた。

③ 報告書編集会の実施

4月3日、5月1日、5月15日の3回、各担当者が作成したり定例会で内容を検討・修正した原稿すべてに目を通し、編集・校正を行う編集会を実施した。

④ 報告書の作成・印刷

編集会で作成した原稿をもとに、デザイン会社に報告書のデータ作成を委託した。そのデータを地元印刷会社にて印刷、「沿岸地域の「水の神さま」が繋ぐ水と人の歴史文化伝承プロジェクト報告書」を300部作成した。





〈報告箇所〉

- 1 五十鈴神社 (気仙沼市魚町)
- 2 荒澤神社 (南三陸町志津川字袖浜)
- 3 荒島神社 (南三陸町志津川字大森)
- 4 上山八幡宮 (南三陸町志津川字上の山)
- 5 大島神社 (石巻市住吉町)
- 6 白鬚神社 (東松島市野蒜)
- 7 浪分神社 (仙台市若林区霞目)
- 8 八大龍王碑 (仙台市若林区荒浜)
- 9 五柱神社 (仙台市若林区藤塚)
- 10 淵上蛸薬師瑠璃光如来堂 (仙台市太白区长町)
- 11 湊神社・富主姫神社 (名取市閑上)
- 12 浪切地藏尊 (亘理町荒浜)

地域での呼び方「荒島(あれしま)神社」

# あれしまじんじや 荒島神社



所在地 住所・行き方

- 住所：南三陸町志津川字大浜162
- 行き方：荒島線B R T志津川駅(バス停から県道221号線を東方向へ車で約5分)
- 近くの川、海：志津川河

縁起・由緒・伝承

■ 御祭神  
祭神…前津見神(主祭神)、巽玉彦命、金山彦神、金山彦命、天物主神、市杵島比売命、合祀石神…金山比賣大権現、八咫大神、岩窟神社、山神社、山神、茶袋勇大神(境内の案内板による)

■ 別称  
大換祈願、海上安全

■ 縁起・由緒・伝承  
『安永風土記』に、荒島に弁財天宮があったことが記されており、古くから漁業者の信仰を集めていたと考えられる。  
その後、荒島の南方にある弁天宮に弁天宮が移されたが、一石祠を残すのみとなった。  
昭和35年(1970)5月24日のチリ地震津波で、町内全域が大きな被害を受けたため、翌年、被害が大きかった津の須賀(現在の本浜)地区と大浜地区にあった金山比賣大権現建立碑と八咫大神建立碑を弁天宮に合祀し、新たに荒島神社を創建した。(宮城県神社庁ウェブサイトによる)  
観光ボランティアガイドの後藤一樹さんによると、荒島神社の弁天宮は、黒崎の弁天神社とともに志津川河を両側から挟み込むように鎮座しており、ともに志津川河に針をたらす守護神として信仰されて来たという。  
現在、上山八幡宮の工藤祐光宮司が荒島神社の宮司を務めている。

工島宮前から八咫大神の御名を聞く

荒島神社正面の鳥居

平磯明王

10 名物地域の水の神さま調査報告

## 周囲の様子と見どころなど

■ 周囲の様子  
稲島、荒島、竹島、袴前島などの幾帳が散らばるリアス式海岸特有の美しい景観により、沿岸部一帯が南三陸金華山国定公園の指定を受けている。  
荒島は、標高46m、面積約3.1ha(ハクタル)の島で、距離100m程の歩道(防波堤)で大浜崎と繋がっており、島まで歩いて渡れる。  
震災後に修復された階段を登り、遊歩道を10分程歩くと、平らな山頂付近に突然真っ赤な鳥居が現れ、その奥に荒島神社が鎮座している。

■ 見どころ  
明治の神仏分離の際に、他の志津川河の島々が全て国有林に編入されたのに対し、荒島だけ民間に売却された。後に町の眞志家が買い戻し、さらに昭和2年(1937)、外瀬防波堤が完成し大浜崎と荒島が繋がると、歩いて渡れる洋上公園として開放された。  
荒島にはタブノキの原生林や暖地性草木が自生しており、自然観察にも最適な島である。  
日の出と夕暮れのビューポイントとしても志津川屈指の場所とされ、荒島を正面にして左手には、モアイ像を横にしたような岩がある。(南三陸町観光協会ウェブサイトによる)  
後藤さんによると、ケヤキなど落葉広葉樹の多い北西側斜面に対し、東側斜面にはタブノキなど常緑樹が多く、その植生の違いを観察できるのは秋から冬にかけて、とのことである。

■ 震災とその後のようす  
■ 震災前  
荒島がある袖浜海岸は、古くからの海水浴場で、震災前は、シーカヤックなども体験できる人工の海水浴場(サンオーレそではま)や釣り堀が整備され、休日になると駐車場が満杯になるくらい賑わっていた。(南三陸町観光協会ウェブサイトより)

■ 震災後  
震災後の荒島は、荒島に繋がった防波堤が壊れてしまっている。荒島に渡るには、荒島に繋がった防波堤を渡らなければならない。

内部に渡る鳥居

防波堤から見た荒島

海から見た荒島の鳥居

震災後の荒島は、荒島に繋がった防波堤

11

地域での呼び方「ハツテラさん」「はつてら様」

# はちだいりゅうおうひ 八大龍王碑



所在地 住所・行き方

- 住所：仙台市青葉区荒浜字中丁36番地33
- 行き方：県道137号線を車で快速、船の元津田(バス停まで)で行くと、東日本大震災津波も被害を受けた。その跡に碑が立ち、海が遠くまで広がっている。
- 近くの川、海：仙台湾、荒浜海岸、荒山堤

縁起・由緒・伝承

■ 御祭神  
八大龍王

■ 別称  
豊漁・海上安全、降雨・止め雨

■ 縁起・由緒・伝承  
碑は江戸時代後期、文政7年(1824)建立され、縁起等詳細は明らかではないが、下に「海上安全当浜中」と刻まれていたため、荒浜漁業の漁師関係者(市場・船大工・金物屋)が漁をするときの海難防止を祈願して建立されたものと思われる。龍は、水神として雨乞いや海上交通安全などのために海・川・湖沼等の水辺に建てられていることが多い。  
震災前、鳥居の脇に手水鉢が奉納されており、藤島久、二風東治の両名の記名があった。これは、船乗りをしていた両名の安全を祈願して、二風東治氏の父親が奉納したものであるが、今回の津波により消失している。

日本大震災津波も被害を受けた八大龍王碑

手水鉢(震災前)

震災前の八大龍王碑

25 名物地域の水の神さま調査報告

## 周囲の様子と見どころなど

■ 周囲の様子  
八大龍王碑が建つ荒浜は仙台市唯一の海水浴場として親しまれてきたが、3.11の津波は標高10m余の松の木を折るに超えて、730戸ほどの住宅街を襲って壊滅させた。震災前の住人3,400人中187人の方が犠牲となった地域である。震災直後に居住禁止区域に指定され、現在は工事として戻された。五層はすっかりと片付けられ防波堤の工事が始まっている。荒浜再生を願う会の方々がログを建てて、復活のシンボルである美しいハンガチを掲げ、荒浜の再生に向けて活動をすすめている。

■ 見どころ  
大きな彫像の龍の脇にひっそりとたたずむ鳥居と木製の板碑があるだけで手を合わせる人は少ないが、震災前の荒浜の人々の生業を感じさせてくれる。

■ 震災とその後のようす  
震災前は、「八大龍王」と彫られた2m余りの石碑が祭壇の中に祀られていた。10mを超える津波で小さな社はひとたまりもなく、鳥居と碑だけがその場に残った。社があった場所は大きくえぐられ、八大龍王碑は真っ二つに割れた状態で、そばに置かれていた。  
現在、石碑は旧市街の西側、旧神明社跡地に移動され、八大龍王碑の建っていた場所には「八大龍王」と彫られた板碑が立ち、海側に向かって鳥居が建つのみである。

かつての住宅地

荒浜再生を願う会の方々のログ

震災前の八大龍王碑

真っ二つに割れた八大龍王碑(2011年6月撮影)

町内の石碑と一緒に祀られていた八大龍王碑

(3) 調査結果の発信

① 調査報告書の配布

作成した 300 部のうち、100 部は現地での調査協力者に複数部ずつ、MELON 役員等の希望者に配布した。今後、各種イベント出展の際や、今期は実施できなかった交流会や見学会の際に協力者や参加者に配布する。

② MELON ウェブサイトでの発信

MELON のウェブサイト内のブログにて、本プロジェクトの調査について写真と説明文を掲載し、活動の状況や成果について発信した。

2014 年 8 月 11 日「MELON 水部会 WNI 気象文化大賞授賞」

2015 年 1 月 7 日「五柱神社（若林区藤塚地区）聞き取り調査～水部会～」

2015 年 3 月 5 日「白鬚神社（東松嶋市野蒜）の聞き取り調査をしました」

③ MELON 情報紙での発信

MELON から年 5 回、約 700 の会員や環境団体・自治体に送付している情報紙に、南三陸町での調査について掲載し、調査内容について発信した。

**MELON 情報紙**  
Miyagi Environmental Life Out-reach Network  
2015年1月★第111号

～ 謹賀新年 ～  
2015年という分かれ道 理事長 長谷川 公一

2015年、日本と世界にとって大きな分岐点となることでしょう。  
1945年の敗戦からちょうど70年です。憲法を守るのか、自民党専断のような方向に憲法を変えるのか、2015年の最大の焦点はこの点にあります(2014年12月14日投票の衆院選の最大の焦点も、実はこの点にあります)。  
私たちに「戦後責任」があります。戦後70年の歩みを、戦後70年の振り返りと地域づくりをどう評価するのか、という大課題です。  
矢張り「日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか」(朝日誌、2014年10月号)は、戦後の戦後70年、総括を要する「米軍への自衛的警戒」の歴史を批判しています。西ドイツには長く英仏米の3国の軍艦が駐留していましたが、1990年のドイツ統一にもなると、1994年までに旧東ドイツ地区のロシア軍を4ヶ所の軍艦は撤退しました(NATO軍として米軍が残っています)。フライブルクにあった旧仏軍駐屯地は撤退され、ポーランド地区というエコタウンとして再生しました。ドイツの戦後は、1994年に終了しました。  
一方、沖縄の戦後は終わっていません。日本が政治的には米軍の「基地」的な立場にあることも否定できません。しかも日本は東アジアの隣国に友人がいません。隣の国と仲良くできないのが、国際的に尊敬されることにはなりません。日本の戦後は終わっていないのです。

**南三陸町・巨理町荒浜地区の水の神さま調査**

「沿岸地域の『水の神さま』が繋ぐ水と人の歴史文化伝承を記録するプロジェクト」の野外聞き取り調査が本格的になってきました。11月24日は南三陸町、29日は巨理町荒浜地区、12月7日には仙台市若林区藤塚で聞き取り調査を行いました。南三陸町では3つの神社を調査し、そのうち志津川湾内の荒嶋に祀られている荒嶋神社を紹介します。

荒嶋は照葉樹林の北限の自生の地であり、仙台周辺の林相とは違を異にします。うっそうとしたタブノキに覆われた島の頂上に位置するのが荒嶋神社で、祭神は弁財天(学芸と水の神様)です。3.11の津波で島に入る鳥居と参道が壊されて渡ることができなかったのですが、復興事業の進展で修復され今回の調査となりました。

元は荒嶋の南にある弁財島の小祠でしたが、チリ地震津波を受けて被災した本浜地区にあった金刀比羅大権現、八大竜神碑を弁財宮に合祀して、現在の荒嶋に移転し、神社として登録したものだそうです。  
夏の例大祭で行われる神輿渡御が南三陸町の夏祭りとなり、氏子さんたちの信仰から町のイベントへ変貌しましたが、今回の震災津波で氏子総代5名の内2名の方が他所へ引越されるため、氏子組織の維持についても今後の課題だそうです。

修復された階段を上る。手前は津波で破壊された鳥居

後景に見える荒嶋

案内人後藤一恵さんの解説を聞く

#### ④ イベント展示

「シンポジウム被災地コミュニティの復興と再生」

2015年2月7日(土) 13:00~17:30 東北大学片平キャンパス さくらホール

復興関連の調査発表を行うイベントにて、ブースを出展し、本プロジェクトで調査した水の神さまについて写真を展示した。震災による被害と復興状況を説明し、伝承を残す大切さを伝えた。



## 6. 研究・活動の結果

### ▼ 調査結果・特徴

- ① 沿岸部の水の神様として、「弁財天」や「龍神」など水に関係する神さまを重点に調査したが、内陸部とは異なり、海上安全・船運の安全を祈願した神さまが多い。また、漁民の願いとして豊漁を祈願したものも同様に多い。
- ② その効能は、神社を取り巻く地域コミュニティの変化や、主な生業であった漁業が縮小し、農民が住民の大半を占めるようになり、豊作や家内安全、交通安全など多岐にわたっている。
- ③ 減少しているものの、現在も漁業に関連した生業は続いており、神社が村と漁業の鎮守として町内コミュニティの中心となっている。住民組織、氏子組織が協力して再建を願い、その再建を通して、津波被害について後世に残したり、コミュニティの復興の柱と位置づけて取り組んでいるところが多い。
- ④ 沿岸地域は、川の下流であり、海のそばであることから、洪水・津波などの水害の機会内陸部に対して多く、内陸部と比較して、水に対しての畏怖の念は高い。そのため季節の祭りや年末年始など地域をあげて定期的に水の神さまを維持管理をしており活用され親しんでいることが特徴である。
- ⑤ ウェブサイトで波切地蔵尊の情報を掲載したところ、他県の方から千羽鶴を寄附したいとの要望があり、繋いだことがあった。今後調査によって得た情報を多角的に発信

することに努め、新たなつながりを作っていきたい。

## ▼ 調査結論

東日本大震災の津波により、沿岸地域全体は大きな被害を受けたが、4年が経過する現在においても、かさ上げや防潮堤や住宅の復興が進められている中、水の神さまの復興は大きく遅れていることは明らかである。

漁業関係者にとって水の神さまは大量祈願、家内安全を願い、また水への畏怖の念を伝える重要な場所であり、神社等の祭事は、地域のコミュニティの構築に重要な役割を果たしている。そのコミュニティの中心である水の神様の再興は、被災した地域住民を地域に呼び戻す重要な拠点であり、それによってコミュニティの復活に結びつくことは間違いない。

一方で、震災前においても、氏子世帯数が減っていたり高齢化が顕著になっているなど、課題も抱えており、神社等に関わる歴史・文化をどのように記録し次世代へ継承するかが大切である。

## 7. 今後の課題・計画

今回の調査結果について、報告書を用いて広めていくほか、震災の記録をアーカイブ化しているせんだいメディアテークに対して調査情報を提供し、そこから発信してもらうようにすすめていく。

沿岸地域および内陸部の水の神さまの伝承・継承は、継承していく次世代がいないことや地域住民が減っていることなどそれぞれに課題を抱えている。今後、それらの継承に取り組んでいる方々同士の情報交換や意見交換をする交流の場を作り、解決策を考えていきたい。

また、今年度実施に至らなかった見学会・シンポジウムについては、来期の活動の中で開催する。

添付資料：

①実施日程・参加一覧

②成果物：「沿岸地域の『水の神さま』が繋ぐ 水と人の歴史文化伝承プロジェクト報告書」





平成26年度 沿岸地域の「水の神さま」プロジェクト 日程・出席者一覧

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	6月14日	7月30日	8月7日	8月17日	9月8日	9月8日	10月19日	10月23日	10月25日	10月27日	11月16日	11月24日
		定例会	仙台市若林区「五柱神社」調査	東松島市白鬚神社	定例会	亶理町浪切地蔵	気仙沼市五十鈴神社	仙台市若林区五注神社	定例会	南三陸町荒沢・荒島・上山	石巻市大島神社	南三陸町荒沢・荒島・上山
メンバー												
1	荒井重行	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
2	井上昭吾	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×
3	井上千鶴子	○	×	×	○	×	×	×	○	○	×	×
4	小島淳子	○	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○
5	科野 健三	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	○
6	高橋春男	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	○
7	中條敏美	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○
8	山田一裕	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	○
9	廣重朋子	○	○	×	○	×	×	×	○	×	×	○
10	篠原富雄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	9	1	1	7	1	1	1	9	4	1	7

	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	1月17日	1月24日	2月24日	2月28日	3月14日	3月16日	3月26日	4月3日	4月11日	5月1日	5月9日	5月15日
	気仙沼市五十鈴神社	定例会	名取市閉上湊神社	石巻市大島神社、東松島白鬚神社	定例会	仙台市若林区八龍王碑	編集会	編集会	定例会	編集会	定例会	編集会
メンバー												
1	荒井重行	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	○
2	井上昭吾	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○
3	井上千鶴子	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○
4	小島淳子	○	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○
5	科野 健三	×	×	×	○	×	×	×	○	○	○	○
6	高橋春男	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○
7	中條敏美	○	×	×	○	×	○	○	×	×	×	×
8	山田一裕	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○
9	廣重朋子	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○
10	篠原富雄	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
	3	9	1	5	8	1	5	5	8	4	6	4

